

中小企業景況調査結果(令和元年7~9月期)

中小企業の業況は、わずかに回復状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業97社を対象に景況調査を実施し、このほど令和元年7月~令和元年9月期実績と10~12月期見通しについての調査結果(回答数83社、回答率85.6%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲25%から▲22%と僅かに上昇した。業種別にみると、製造業は23%から▲8%と大幅に低下しており、来期も▲27%と大幅に低下の見通しである。建設業は▲8%から変わらず、来期も▲8%となる見込みである。小売業は▲36%から▲28%と上昇しており、来期はさらに▲8%と大きくマイナス幅が縮小する見通しである。サービス業は▲38%から▲23%と大幅に上昇しており、来期は▲21%と僅かに上昇の見通しである。

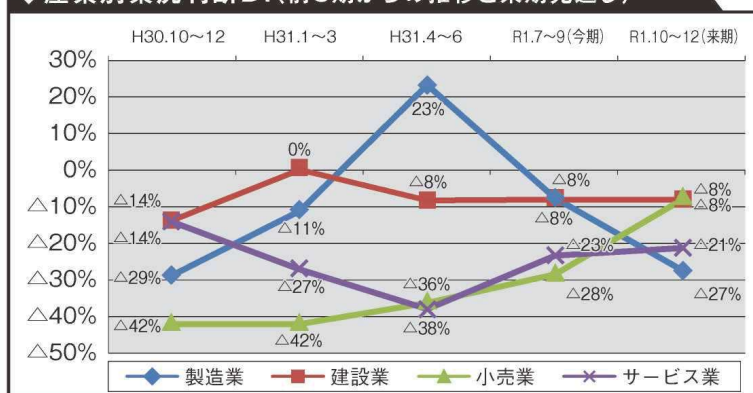
今回調査では、前回調査で上昇傾向であった売上の低下傾向が見られ、前回低下傾向であった従業員数の上昇傾向が見られた。小売業、サービス業では、業況判断、売上、経常利益に上昇傾向が見られた。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の16%、来期設備投資を実施予定の企業は16%であった。経営上の問題点については、製造業では上位1位・2位は相変わらず前回と同様であった。また、建設業では材料価格の上昇、小売業では需要の停滞、サービス業では利用者ニーズの変化への対応が上位にあがっている。

◆業況DI値(今期の状況)

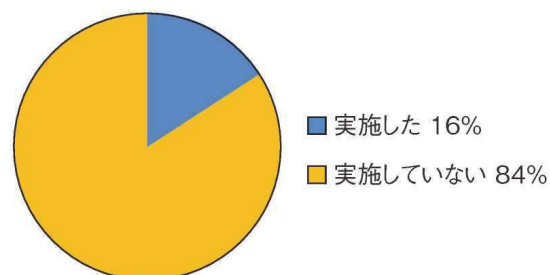
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△22%	↗	△25%	↘	△12%	↘	41%	↗	△19%	↗	△4%	↗
製造業	△8%	↘	△17%	↘	△17%	↘	91%	↗	0%	↘	△20%	↗
建設業	△8%	→	△31%	↘	△17%	↘	38%	↗	△31%	↘	0%	↗
小売業	△28%	↗	△23%	↗	△8%	↗	38%	↗	△24%	↗	8%	↗
サービス業	△23%	↗	△23%	↗	△10%	↘	21%	↘	△14%	↗	△10%	↘

◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)

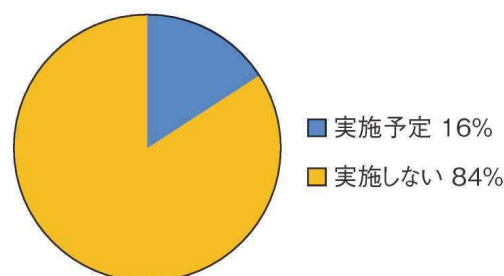


◆新規設備投資(今期実施・来期計画)

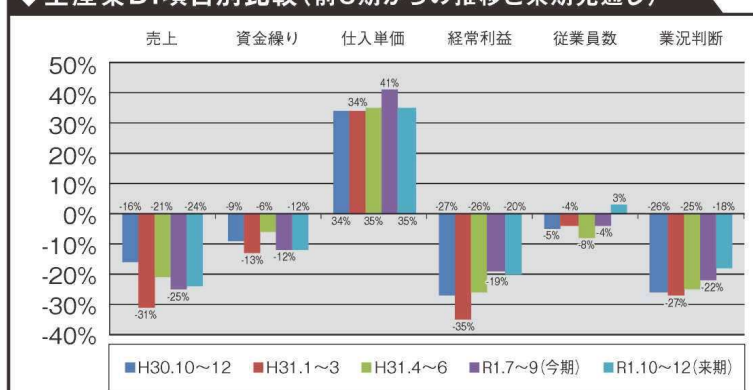
【今期設備投資】



【来期設備投資計画】



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 20.7%	材料価格の上昇 16.2%	需要の停滞 18.5%	利用者ニーズの変化への対応 17.6%
2位	原材料価格の上昇 17.2%	官公需要の停滞 13.5%	購買力の他地域への流出 13.8%	需要の停滞 14.9%
3位	生産設備の不足・老朽化 17.2%	民間需要の停滞 13.5%	消費者ニーズの変化への対応 10.8%	従業員の確保難 12.2%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。